

日本ゼオン 高岡工場

高岡工場について

【主な製品・機能】

特殊合成ゴム、半導体関連製品

1956年設立。特殊合成ゴムや半導体関連製品を生産するゼオングループの主力拠点です。敷地内には、関連会社のオペテスとゼオンメディカルもあります。近年では、精密光学研究所、生産技術研究所およびメディカル研究所を併設し、研究と製造が一体となって製品開発のスピードアップを図る研究開発型工場となっています。



高岡工場全景

事業所の方針（工場長より）

高岡工場は、将来のゼオンを担う新事業の生産拠点となるために、『安定・安全・技術の見える化を実現させ、コストを意識した自在な生産体制を構築し、変化に強い研究開発型工場に生まれ変わる』をありたい姿に掲げています。2017年度は『徹底的に生産革新に取り組み、安全指標、工程安定化指標を達成する』を方針として、以下の活動を行っていきます。

1. 対話と基本行動・3Sの徹底により安全・環境・保安指標ゼロ！に挑戦する。
2. 見える化を進め、環境負荷低減・工程安定・コストダウンを実現する。
3. 既設能力増強と新製品の生産技術開発を推進する。
4. 働き方改革に取り組み、自分の健康目標を定めて改善する。



高岡工場長 浅野 浩一

安全への取り組み

【保安方針】

1. 保安事故・保安異常の発生“ゼロ”を追求していきます。

当事業所で取り扱う高圧ガス、危険物は、取り扱い方を誤ると重大な事故に繋がる危険性があります。事故の予防に関し、全従業員の英知を傾け安全を確保する取り組みを展開していきます。

2. 事業所の特徴を自覚し、保安管理活動に取り組みます。

当事業所は、地域社会の住居に隣接していることから、一度事故或いは異常が発生すると、影響は事業所内や顧客のみに留まらず、近隣の住民の方にも多大な被害を及ぼすことになります。保安事故・異常を撲滅し、安心して働ける職場、信頼される企業にしていくとともに、安心して生活できる生活環境の確保を目指します。

3. 保安関連の法令、協定及び自ら定めた規程類について遵守します。

保安関連の法令の遵守はもとより、当社・当事業所が結んだ協定及び社内の規程類についても遵守します。

4. 継続的に改善を進めます。

安全第一を基本に、技術、管理手法の開発・工夫を継続的に進めます。そのために、保安管理目標について、毎年見直しを行い、常に保安レ

ベルの向上を目指していきます。

保安管理活動の見直し改善とともに、保安管理システムを定期的に見直し改善を進め、内容の充実を図っていきます。

環境負荷削減の取り組み

【環境方針】

1. 環境事故・環境異常の発生“ゼロ”を追求していきます

当事業所で取り扱う高圧ガス、危険物は、取り扱い方を誤ると重大な環境汚染に繋がる危険性があります。事故及び環境汚染の予防に関し、全従業員の英知を傾け取り組みを展開していきます。

また、地球規模から地域までの幅広い視点での環境保護のために、「ゼロエミッション」の達成を目指します。

2. 事業所の特徴を自覚し、環境改善に取り組みます

当事業所は、地域社会の住居に隣接していること、工場排水を小矢部川に依存していることから、一度事故或いは異常が発生すると、影響は事業所内や顧客のみに留まらず、近隣の住民の方にも多大な被害を及ぼすこととなります。環境事故・異常を撲滅し、安心して働ける職場、信頼される企業にしていくとともに、安心して生活できる生活環境の確保を目指します。

3. 環境関連の法令、協定及び自ら定めた規程類について遵守します

環境関連の法令の遵守はもとより、当社・当事業所が結んだ協定及び社内の規程類についても遵守します。

4. 継続的に環境改善を進めます

経済的に可能な技術、管理手法の開発・工夫を継続的に進めていきます。

そのために、環境目標について毎年見直しを図り、常にレベルの向上を目指していきます。

また、環境マネジメントシステムを定期的に見直し改善を進め、内容の充実を図っていきます。

【環境マネジメントシステム適用範囲】

① 組織の単位：日本ゼオン株式会社高岡工場の室課

機能：合成ゴムの製造及びパイロットの研究、電子材料の製造

物理的境界：富山県高岡市荻布 630 番地、日本ゼオン株式会社高岡工場全エリア

尚、高岡工場敷地内のゼオン高岡グループ関連会社および研究所の建屋、敷地は、適用を除外するが、環境側面への支援を行う

② 組織の活動：原材料購入から製造、包装、保管、出荷にいたる業務

製品およびサービス：合成ゴム、合成ラテックス、電子材料製品、客先への情報提供、客先および近隣地域でのクレーム発生時の対応

③ 管理し影響を及ぼす：本社部門（設計、開発含む）、協力会社（製品の物流、産業廃棄物の処理等）、取引先（原材料の供給組織の権限および会社等）

び能力

【具体的な取り組み】

1. 有害化学物質排出量削減

・有機溶剤の回収設備を新設し、ゼロエミッションを目標に、有機化学物質の排出量を段階的削減する。

2. 産業廃棄物削減

・新設備からの回収物を 100%再資源化する方法を検討し、産業廃棄物の埋立処分量ゼロを継続する。

3. 大気・水質への負荷削減

・液化天然ガスを燃料とする省エネ・高効率のボイラーを稼働し、CO₂ 排出量を大幅に削減する。

4. 省資源・省エネルギー

・省エネ・高効率のボイラーの稼働による省エネに取り組む。
 ・電力使用ピーク時を避け、電力使用の平準化に対応する。

5. 環境関連データ (「0」は 0.5 未満、「0.0」は 0.05 未満を示す)

高岡工場		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
PRTR 法対象物質	使用量 (トン)	125	16	21	17	22
	排出量 (トン)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物	減容前発生量 (トン)	4,882	12,494	8,794	7,309	6,751
	減容後発生量 (トン)	535	1,056	437	363	336
	埋立処分量 (トン)	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
大気排出	CO ₂ 排出量 (トン)	23,329	22,546	20,825	20,964	20,654
	SO _x 排出量 (トン)	9.5	3.2	0.0	0.0	0.0
	NO _x 排出量 (トン)	19	13	1.7	2.5	0.2
	ばいじん排出量 (トン)	0	0	0.0	0.0	0.0
	フロン類漏えい量 (トン CO ₂)	-	-	-	47.6	0.6
水資源 (工業用水+地下水+上水道) 使用量 (千 m ³)		4,052	3,732	3,848	3,804	4,079
排水	総排水量 (千 m ³)	4,408	4,890	3,322	3,213	3,428
	COD 排出量 (トン)	14.3	18.9	12.7	12.6	16.1
	全リン排出量 (トン)	0.5	0.8	0.3	0.3	0.3
	全窒素排出量 (トン)	19	20	14	14	15
エネルギー	使用量 (原油換算、kL)	8,868	8,986	8,290	9,380	9,605
	原単位指数 (90 年度を 100 とした比率)	103%	104%	92%	102%	116%
換算生産量 (トン)		4,295	4,433	4,617	4,617	4,260

社員とともに

【方針】

「従業員ひとり一人の能力を引き出し、育成し、活かす」を目的に人材育成を行う。

【具体的な取り組み】

- ・基礎教育、環境安全教育、職能教育、品質管理教育を教育の柱とした、「高岡工場教育体系図」の制定
- ・オペレーター教育：水島工場『ものづくり研修所』での入社 1～3 年目社員への教育
- ・プラント運転知識の習得：OJT を中心とした操業技能教育、緊急処置訓練、異常想定訓練による実地教育、原理・原則を学ぶ化学工学教育 (CAI 活用)

地域との共生

【具体的な取り組み】

1. ボランティア活動を通じた地域への貢献

- ・工場周辺地域の美化活動
- ・氷見海岸清掃
- ・伏木国分海岸清掃



海岸清掃

2. 地域との交流

- ・ゼオン高岡グループ納涼祭の開催（地域住民と従業員やその家族との交流）
- ・地域開催イベントへの参加（産学官交流会「二上まんじょう会」、高岡市「高岡万葉まつり」、富山県「富山マラソン」）



ゼオン高岡グループ納涼祭

3. 工場見学

工場の生産活動や取り組みを紹介する工場見学を行っています。

- ・地域の住民・団体の工場見学会
- ・学校からの工場見学会
- ・企業からの工場見学
- ・従業員家族の工場見学会



工場見学会